



芝生への水まきをしていると自然に子どもたちが集まる



NPO 法人
ファングリーン

子どもから大人まで 自由に楽しめる芝生を まちのあちこちに つくりたい

子どもたちが元気よくはだしで駆け回り、誰もが気軽に憩える芝生の空間が、もつとまちのあちこちにあつたらいいの……。そんな思いから、NPO 法人ファングリーンは芝生による公共スペースの緑化活動を続けています。

発足のきっかけは、現在代表理事を務める戸塚航介さんが武蔵野市の市民会議で提案した「市内の小学校や公園を芝生化する」アイデアでした。「自分の子どもが小さい頃、芝生の上で遊ばせるととても生き生きとしていました。市内にそうした場所をもっと増やしたい」。この考えに共感した市民会議の参加者らによって平成19年に活動がスタート。武蔵野市緑化環境センター（当時。現緑のまち推進課）との協働事業で「むさしの市民公園（緑町2-2）」の一部200㎡の芝生化に着手し、翌年には500㎡に拡張、平成21年には市民も参加しながら1万個のポット苗を植え、公園のほぼ全面にあたる1600㎡の芝生化を実現していま

す。「芝生というと、一般的には業者さんが工事して作るものですが、ここでは『ポット苗』を使った手法で小さなお子さんも一緒にやっての芝生作りを行っています」と戸塚さん。また、芝生は世話が大変と言われますが、「作業内容は週に1〜2回の芝刈りに、晴天が続いた時の散水、月に1〜2回の肥料くらいです。いわゆる雑草取りは、芝刈りさえしていれば特に取らなくても大丈夫。その時々で都合のつく人、やりたい人が数名集まって行っています。広い庭のガーデニングのような気分で、それぞれマイペースに楽しめる範囲で参加してもらっています」。

「むさしの市民公園」は、4月の桜まつりをはじめ、年間を通してさまざまなイベントが開催されますが、芝生は原則的に利用制限なし。日頃は少年たちがサッカーを楽しんでいます。「目指したのは観賞用ではなく思い切り使うための芝生。どんなに使って、傷んだ分は少し手を加えれば復活します」（戸塚さん）。「子どもたちが芝生の上で走り回っていたり、寝転んでいる姿を見るとやりがいを感じます」（参加メンバー）。

「むさしの市民公園」の成果をもとに、今後は市内のほかの公園や小学校の芝生化にも取り組んでいきたいとのこと。

NPO法人ファングリーン

平成19年発足。芝生を用いた公共スペースの緑化推進・普及啓発事業を行う。むさしの市民公園の芝生化を実現したほか、都内の小学校でポット苗作成指導のサポートなども行う。現在、正会員10名、作業サポート会員約10名。会員とサポート会員は随時募集中。
<http://fungreen.blogspot.com>



ファングリーン運営スタッフのみなさん



芝生に寝転ぶと気持ちいい〜！